

# 研究紀要の創刊に寄せて

副学長      大      橋      主      城

このたび、本学において教職員の日頃の研究成果を収録した「研究紀要」の創刊号を発刊することになった。誠に慶賀に堪えない次第である。

そもそも本学は、昭和二十五年四月に、小学校および幼稚園教員の養成を目的とした短期大学として発足した。設立認可の際、当時の大学設置審議会において、私学に義務教育教員の養成を認めるか否かで問題となり、慎重審議を経た後、結局わが国最初の小学校教員養成の短期大学として認可設立されるに至ったのである。

爾来ここに二十有余年、斯界の期待と要望に副うべく営々と教員養成のために全力を傾注してきた。その結果、入学志願者は全国から殺倒し、小学校教員志望者の殆んどが都道府県の教員適性検査のテストに合格して、千葉県を始めとして全国の小学校に就職し、その活躍には注目すべきものがある。しかも性格が素直で、職務に忠実であり、研究心も旺盛であって、子どもたちからも親われているなど、就職先の小学校長の大方から好評を博している。

これはひとえに、本学の建学精神に基づく経営方針のもとに、経営者、教職員が一体となって学生の教育指導にあたり、優秀な教員の養成に努めてきたからにはかならない。本学の教育目的として「高等学校教育の基礎の上に実際の専門職業に重きを置く大学教育を施し、良き社会人を育成すること」とあるが、これは二年間の徹底した専門教育（あるいは職業教育）によって、四年間の大学教育を修了した者に優るとも劣らない有能な社会

人（あるいは職業人）にまで育成しようというのである。大学の真価は、そこで行われている教育の成果の如何によつてきまるものであつて、けつして教育期間の長短によつてきまるものではない。少しの無駄も許されない、充実した教育をもつてすれば、二年間の短期大学教育で四年間の大学教育に匹敵するだけでなく、はるかにそれを凌駕するほどの成果を挙げることにも不可能なことではない。このような教育の実現こそ、本学においてめざしているものである。

したがつて、教育の直接の担当者である短期大学教員の責務は重大であるといわなければならない。ともかく二年間で高度な専門的知識や技術を学生の身につけさせなければならない。しかもその知識や技術は量ではなくて質にかかわるものであり、またそれらは単なる伝達・受容によつてではなくて創造的な学習方法によつて修得されるものでなければならない。そこで教員に要求されるものは、自己の専門分野における絶えざる研究活動と、学生の創造性の開発をめざす教育活動との調和をはかることである。すなわち個人としての教員のなかには、専門分野において現在到達されている学問水準を抜き出て、未開拓の領域を究めようとする研究者としての姿勢と、専門的知識に対する学生の知的探究心に応え、共同して問題の解決を求めようとする教育者としての姿勢との両方がうまく調和を保っていることが必要となってくる。そのためには、自己の専門分野における研究業績を積み重ねることに専念し、学生教育指導への努力を最小限にとどめようとする、いわゆる「研究のための研究」の立場ではなく、むしろ学生教育指導に重点を置き、そのために自己の専門分野の研究成果を活用しようとする、いわゆる「教育のための研究」の立場が要請される。もちろん専門分野の研究が直接教育指導と結びつかない場合もあることは考えられ得るが、それは学会とか外部の研究機関で行われるべきことであつて、少なくとも短期大学においては、学生教育指導を中心とした諸問題についての研究がもっと取りあげられる必要があることを痛感する次第である。もちろん学内に付属の研究機関もなく、また研究組織も十分整備されているとはいえない現状では、満足な研究活動を期待するほうが無理なことは重々承知しているが、現在置かれている状況下で可能

な限りの研究活動に従事されるよう念願してやまない。

おいおい研究体制の整備にとりかかってゆくつもりであるが、今回の研究紀要の刊行はその一環として計画されたものである。いささか遅きに失した憾はあるにしても、本学における研究活動がこの研究紀要の刊行を契機として、一層活発になることを期待し、さらに今後この研究紀要が定期的に続刊されることを祈念したい。

最後に、諸般の事情で刊行がずいぶん遅れて、執筆者の方々にご迷惑をかけたことをおわびし、ここにあらためてそのご労作に対して深甚の敬意を表する次第である。